

海軍炭鉱第六坑の火災

海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群 (14)

大正十五年（昭和元年、一九二六）十月二十日午後十一時五十七分、宇美局から一通の電報が海軍省に打たれました。発信者は「燃料廠採炭部長」。正式には第四海軍燃料廠と言ひ、採炭部長は新原の海軍炭鉱のトップにいた人物です。

「本日午後九時三十分、第六坑撰炭工場発火、午後十一時全焼鎮火ス。原因及損害取調中」
鎮火した直後に第一報が打たれています。現場は消火活動で混乱していたので、一段落して報告されたのでしょう。翌日には「撰炭工場ヲ全焼シ、重要ナル設備ニ多大ノ損害ヲ与ヘタルハ、誠ニ恐懼ノ至ニ堪エズ」として、経緯が報告されています。

平穩無事な日常は記録に残りにくいのに対し、非日常は詳しく記録されることがしばしばあり

ます。第六坑の火災もそれに当たります。この一件は「海軍燃料廠採炭部変災火災事件」というファイルに記録が残っています。JACARアジア歴史資料センター RefC04015446600、公文備考 変災災害 2 止兵事 卷123（防衛省防衛研究所）

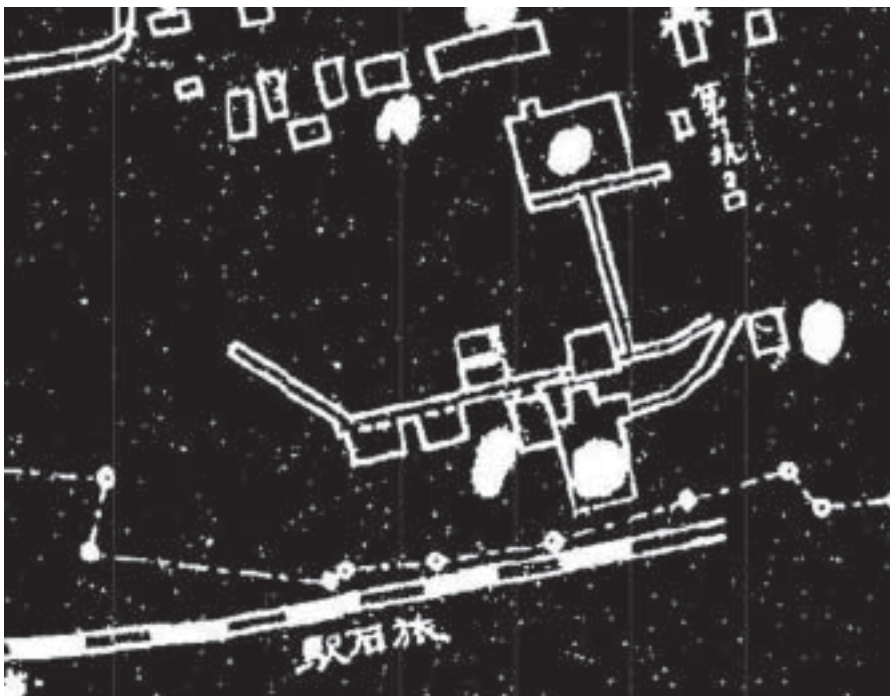
第六坑は現在の水戸病院の北西側一帯に当たります。須恵高校の位置が第六坑のボタ山です。火災の原因は単純なものでした。一運搬夫が、暗黒の中でスパナを探そうとしてマッチを擦ったために可燃物に引火したのです。付近には火夫・運搬夫がおり、消火器も常備されていたのですが、失火を隠すために独力で火を消そうとして、かえって初期消火を遅らせることになりました。（結果的に第一発見者を装うことになりました）

「当部防火隊、並附近村落・炭坑等ノ消防隊ノ敏速ナル、二十余个ノ消火唧筒ノ注水モ其ノ効ナク、終ニ選炭場ノ殆ンド全部、及貯炭場・棧橋ノ一部ヲ焼燼シ、同十一時鎮火セリ」
消防に従事した中に軽傷者十余名を出しましたが、応援の消防隊の活躍もあって、周囲の施設や住宅を巻き込むことはありませんでした。損害は建物・機械・器具・石炭など約一万七千七百円に上りました。

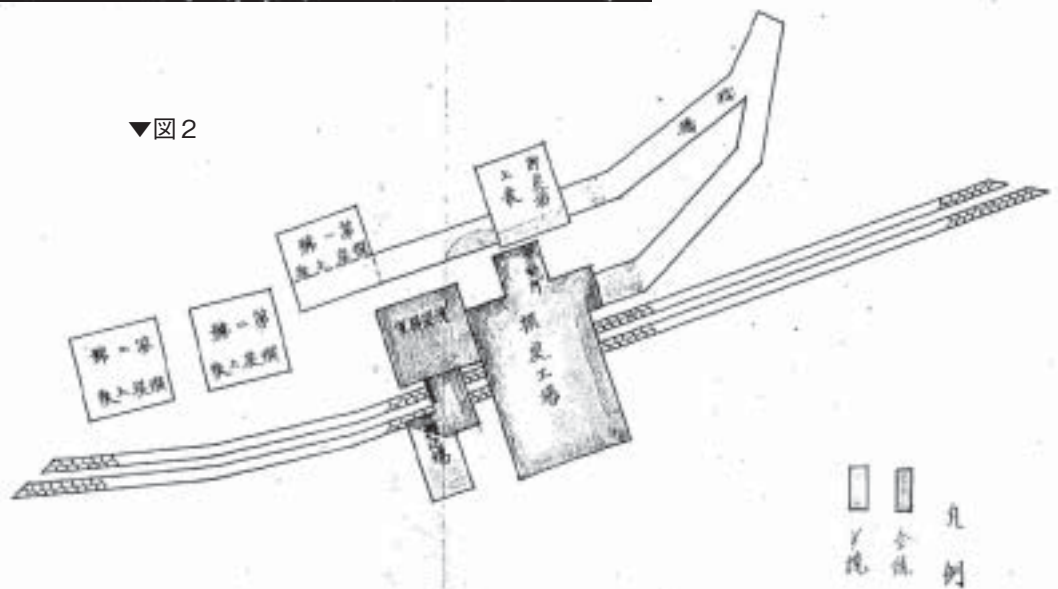
興味深いのは報告書に被災地の図面と写真が添付されていることです。図面は「第六坑用地図」と火災現場の二点、写真は五点あります。

図1は「第六坑用地図」の内、現場付近を切り取ったもの（線路には「博鉄貨物線」と書かれています。博鉄は博多湾鉄道の略）、図2は被災状況を図示したものです（二段になった石垣が描かれています）。棧橋は炭車が方向転換するための場所でもあったようです。

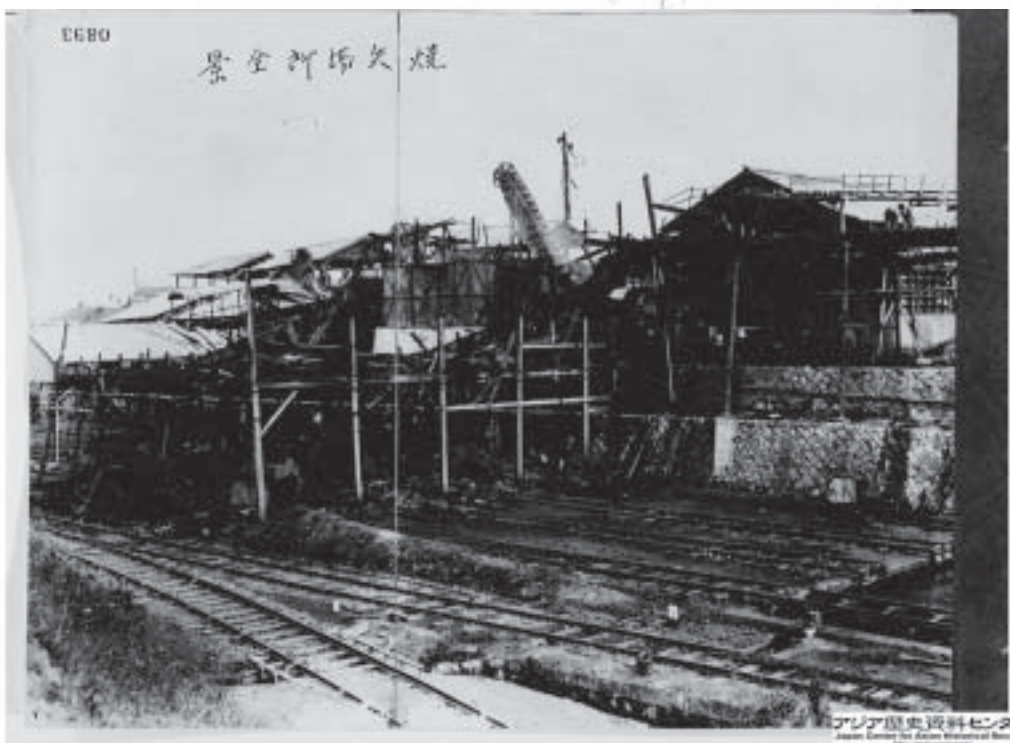
写真1は「焼失場所全景」と書き込まれた写真で、石炭を運び出すための線路が写っている点で貴重です。手前が博鉄貨物線、奥が「撰炭工場」の下を通っていた線路と推定されます。



◀図1



▼図2



◀写1